

# 經濟論叢

第106卷 第6号

---

- 大企業の生産構造 (1)……………堀 江 英 一 1
- 高度成長における貯蓄と投資……………永 友 育 雄 27
- アメリカ農業資本主義化の最近の傾向  
(1959年～1964年)……………中 野 一 新 45
- 社会主義的「商品」説の  
主要論点と古典……………青 木 國 彦 68

經濟論叢 第105卷・第106卷 総目録

---

昭和45年12月

京 都 大 學 經 濟 學 會

# アメリカにおける農業資本主義化の最近の傾向

—1959年～1964年—

中 野 一 新

前三稿<sup>1)</sup>は1959年合衆国農業センサスを素材に、現代アメリカ農業の進化の法則を解明する実証作業をすすめることにあった。本稿の課題は、最近入手できた「1964年合衆国農業センサス」(U. S. Bureau of the Census, 1964 U. S. Census of Agriculture, 以下1964年センサスと略)をもとに、1959年以後のアメリカ農業の進化の傾向を分析し、前三稿での結論<sup>2)</sup>をその後のアメリカ農業の現実の推移によって検証することにある。とくに、ここでは1959年のLarge-Scale Farming (本稿では以下巨大農場と略す)<sup>3)</sup>を分析した第3論文を踏まえて、その後におけるアメリカの最大規模の農場の動向に焦点をあてて分析する。もちろん、わずか5年間の推移によってアメリカ農業の発展傾向のすべてを見通すことはできないが、のちにみるとおり、この5年間の傾向は前稿での結論をより確かなものにしてくれる。

1964年農業センサスには定義および分類上いくつかの重要な変更があり、1959年センサスと比較の際、資料操作のうえで注意を要する。本稿での分析とかわる範囲で重要な点を指摘すると、第一は「農場」の定義変更により<sup>4)</sup>、

- 
- 1) 拙稿、①現代アメリカ農業の資本主義的性格、「経済論叢」第101巻第2号、昭和43年2月；②現代農業における資本主義の一般法則の貫徹と集約的・商業的農業の成長、同上、第101巻第3号、昭和43年3月；③現代アメリカ農業における巨大農場経営、同上、第102巻第3号、昭和43年9月。
  - 2) 前稿の結論については、拙稿、同上、第101巻第3号、64ページおよび第102巻第3号、63-66ページ参照。
  - 3) 拙稿、同上、第102巻第3号、45ページ、注3)参照。
  - 4) 1964年センサスの「農場」定義について、くわしくは1964年センサス、Vol. II, pp. XVIII-XX 参照。

1964年の農場数には1959年センサスの定義では除外されるはずの約 16.6万農場が含まれていることである。この 16.6万農場は、いずれも農産物販売額 2,500ドル未満、経済階層 (economic class)<sup>5)</sup> 別でクラスVI以下の農場であり、「商業的農場 (commercial farms)」に 3.1万農場、「その他の農場 (other farms)」に 13.5万農場それぞれ含まれている。第二に、経済階層別のクラスVI農場と兼業農場の定義が変更されたため、1959年の定義では前者に含まれるはずの 15.8万農場が、1964年センサスでは後者に属している<sup>6)</sup>。第三に、1964年センサスの「一般報告 (Vol. II, General Report)」ではじめて農産物販売額 10万ドル以上の農場 (巨大農場) の主要調査項目が農場の型別<sup>7)</sup> に分類されたことである。1959年には販売額 4万ドル以上の農場が一括されており、「特別報告」<sup>8)</sup> でのみ巨大農場が地域別に分類されていた。各生産部門で集約度の大きく異なるアメリカ農業で、農場の型別に最大規模農場の分析が可能になったことは重要だが、巨大農場の主要調査項目を1959年と比較するには地域別分類によるしかない。なお、1964年センサスの「一般報告」では巨大農場の主要調査項目を地域別に分類できないので、各州ごとに集計している「州および郡統計 (Vol. I, State and County Statistics, Part 1-48, 以下 State Statistics と略) の Table 23 をそれぞれ主要経済地帯別に再集計する。第四に、農業労働者数について1964年センサスでは常雇数 (regular hired workers) しか集計しておらず、季節雇数 (seasonal hired workers) はわからない。また常雇数についても定義が変更され厳密な比較はむずかしい。他方、賃金支出額の項目は、1964年センサスではじめて支出額別に賃労働の集積状況を分析できるようになった。第五に、機械賃作業 (machine hire) 支出額のうち繰綿 (cotton ginning) の賃作業支出額が1964年センサスでは除外された。最後に、1954年センサスまで集計されていた肥料支出額

5) 1964年センサス, Vol. II, pp. XXIV-XXV 参照。

6) くわしくは、1964年センサス, Vol. II, p. XXV 参照。

7) 1964年センサス, Vol. II, pp. XXV-XXVI; および拙稿, 前出, 第101巻第2号, 52ページ参照。

8) 1959年センサス, Vol. V, Special Reports, Part 7, Large-Scale Farming in the United States (以下 Spec. Rpt., Part 7 と略す)。

の項目が今回復活したが、1959年と比較するには肥料使用量の項目によるしかない。

以下では、まずⅠ節で農場数および農場面積を指標にアメリカ農業の近年の傾向を概観したのち、Ⅱ節で賃労働を指標に農業の資本主義化の傾向、Ⅲ節で機械および肥料を指標に集約化の傾向、Ⅳ節で農産物販売額を指標に農業生産の集積の傾向を、アメリカ各地域での大経営の近年の動向とかかわらせて分析する。

### Ⅰ 一般的概況——農場数および農場面積 (land in farms)——

1964年の合衆国の農場数は、定義変更により1959年より16.6万農場も上積みされているにもかかわらず、1959年～1964年間に371万農場から316万農場へ55万農場も減少しており、農場数の最大だった1935年当時(681万農場——現在と農場の定義は多少異なる)の半数以下に減った。定義変更により付け加えられた16.6万農場を差引き1959年の定義に修正すると、1964年の農場数は約299万農場、わずか5年間に72万農場も減少している。農場数の減少を地域別にみると、都市化の激しい東北部での減少率ももっとも高く(21%)、黒人やプアー・ホワイト (poor white) など零細農場を多数含む南部がこれにつづいている(16%)<sup>9)</sup>。農場の減少を絶対数で比較すると農場数の多い南部と中西部に集中しており、両地域で55万農場中45万農場が減少している。

しかし、農場数の減少は全階層で進行しているのではない。経済階層別に農場数の動向をみると(第1表)、農産物販売額2万ドル農場を境に増減あい対立する傾向がみられる。販売額2万ドル以上の階層はこの間に約9万農場ふえたが、そのなかでも販売額の大きい階層ほど増加率は高く、10万ドル以上販売する巨大農場は約2万農場から3.1万農場へ57%、4～10万ドル階層は35%増加しており、巨大農場の農場総数に占める割合は、5年間に0.5%から1.0%へ倍化

9) 定義変更で付け加えられた農場数は合衆国全体についてしか明らかにされていないので、地域ごとの動向は1964年センサスで定義された農場と1959年の農場を比較する。それゆえ、各地域の農場の減少率は現実にはもっと高い。

第 1 表 経済階層別農場数および平均農場面積

経済階層	農場数	農 場 数				一農場平均農場面積	
		1959	1964	1964 <sup>(1)</sup> (修正)	増減率 <sup>(2)</sup>	1959	1964
総 数	3,708千	3,158千	2,991千	△19.3%	エーカー 303.0	エーカー 351.6	
L <sup>(3)</sup> (10万ドル以上)	20	31	31	57.2	5,685.6	3,854.1	
(I) <sup>(4)</sup> (4万ドル～)	82	111	111	34.6	1,682.4	1,352.0	
II (2万ドル～)	210	260	260	23.5	791.1	714.6	
III (1万ドル～)	483	467	467	△3.3	444.9	465.3	
IV (5,000ドル～)	654	505	505	△22.8	288.3	313.0	
V (2,500ドル～)	618	444	444	△28.1	191.9	206.2	
その他 <sup>(5)</sup> (2,500ドル未満)	1,638	1,338	1,172	△28.3	85.7	102.8	
例 外 農 場 <sup>(6)</sup>	3	2	2	△28.8	14,007.3	22,777.0	

1959年センサス, Vol. II, pp. 1212-1213, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, p. 11,

1964年センサス, Vol. II, pp. 638-639 より作成。

(1) 1959年の定義に修正して計算。

(2) 修正した農場数との5年間の比較。

(3) 巨大農場の略, 以下も同じ。

(4) ここではクラスI農場のうち販売額10万ドル未満の農場のみ。

(5) クラスVI農場, 兼業農場, 半隠退農場を含む, 定義変更で前二者の区分が変わったので一括した。

(6) 研究機関の農場, インディアン保留地などを含む。

した。他方, 販売額2万ドル未満の農場はこの間に約64万農場(1959年センサスの定義に修正すると約81万農場)も減少したが, とくに販売額5,000ドル未満農場の減少が著しい。これらの農場の農場総数に占める割合は87%とまだ多数を占めているが, アメリカの農業生産全体に果たす役割は, 後にみるようにこの5年間にますます低下している。

次に農場面積の動向についてみていこう。

合衆国の農場総面積は最近5年間に11,234万エーカーから11,102万エーカーへ約1,300万エーカー減少したが, この間農場数, とりわけ零細農場数の減少が激しかったため, 合衆国全体の一農場平均面積は303エーカーから352エーカーへ約50エーカー拡張した。しかし, 農場面積の拡張は全階層に共通の傾向ではなく, 農場数同様, 農産物販売額2万ドル階層を境に相反する傾向がみられる。農場数の大幅に減少した販売額2万ドル未満の階層では, いずれの階層

でも一農場平均面積が15~25エーカー拡張しているのに対し、農場数の増加した販売額2万ドル以上の階層ではいずれも縮小している。しかも、農場数の増加率の高い大経営ほどその縮小率は高く、販売額2~4万ドル階層で10%、4~10万ドル階層で20%、販売額10万ドル以上の巨大農場では5,686エーカーから3,854エーカーへ実に30%、1,632エーカーも縮小している。ここにみられる農場数と農場面積の関係だけからでもすでに、5年間に増加した大経営、とりわけ巨大農場は農場面積の拡張によるよりも農業の集約化をつうじて発展してきたことを予測させる<sup>10)</sup>。

では、巨大農場を中心に農場数と農場面積の動向を地域別にみてみよう(第2表)。巨大農場数は、この5年間すべての地域で増加し、農場総数に占める割合も上昇しているが、とくに西部の二地域では巨大農場の比重が高い。太平洋岸諸州では3.2%から5.0%へ増加し、農産物販売額4万ドル以上の農場(以下クラスI農場とよぶ)全体では、農場総数の13%に達する(合衆国平均は4.5%)。州別にみるとカリフォルニア州では巨大農場の占める割合は5%から9%(ク

第2表 巨大農場の農場数および農場面積の地域別動向

地域	農場数		農場総数(A)		巨大農場数(B)		B/A		巨大農場の一農場平均面積	
	1959	1964	1959	1964	1959	1964	1959	1964	1959	1964
合衆国	37,080	31,579	19,979	31,401	0.5%	1.0%	エーカー 5,686	エーカー 3,854		
北部	東北部	2,547	2,022	1,109	2,272	0.4	1.1	567	513	
	中西部	14,598	12,774	4,013	7,412	0.3	0.6	2,886	1,734	
南部		16,450	13,727	6,306	10,321	0.4	0.8	6,149	4,096	
西部	山地	1,481	1,341	2,306	2,992	1.6	2.2	18,299	14,244	
	太平洋岸 <sup>(1)</sup>	1,933	1,662	6,217	8,276	3.2	5.0	2,985	2,467	

1959年センサス, Vol. II, p. 1226, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 11-21,

1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23, Vol. II, p. 24 より作成。

(1) ハワイ、アラスカ両州はのぞく。したがって各地域の合計は合衆国の総数に満たない。以下の表も同様である。

10) もちろん、この5年間にも農場面積5,000~1万エーカーの農場が10,824農場から11,441農場へ、1万エーカー以上の農場が8,260農場から8,411農場へわずかながら増加しており(1964年センサス, Vol. II, p. 253)、今なお合衆国には粗放的発展の道を歩む農業経営もみられるが、ここでは現代アメリカ農業の主要な進路が集約的発展の道であることを強調したい。

ラス I 農場全体では15%から20%)へ、アリゾナ州では10%から13% (22%から25%)へ上昇し、これらの州では農場数だけをみても大経営の地位は顕著に上昇している。

この5年間、農場総数の減少率ももっとも高い東北部は、巨大農場数の増加率が一番高く約2倍にふえた。都市化の影響をうけて多数の農場が離農するなかで、少数の大経営が都市化に対応して近郊農業として成長してきているのであり、巨大農場は農場総数の0.4%から1.1% (クラス I 農場全体では3.0%から5.7%)へ上昇している。相対的に家族農場や零細農場の比重の高い中西部や南部でも、農場総数に占める割合はまだ低いが、巨大農場数は5年間に、各々85%、65%と急速に増加している。

巨大農場の一農場平均面積は、アメリカ農業の地域による多様性を浮彫りにしてくれる。資本集約的な近郊農業を営む東北部の平均面積はわずか513エーカーであり、同じ巨大農場でありながら粗放的な放牧農業のさかんな山地諸州(14,244エーカー)のおよそ30分の1の面積で10万ドル以上の農産物を販売している。巨大農場の一農場平均面積は、この5年間合衆国の全地域で縮小しており、巨大農場の集約化が合衆国全体で進行していることがわかるが、平均面積の縮小率は地域により大きく異なる。これまで資本集約的農業の支配的だった東北部および太平洋岸諸州での縮小率は各々、9%、17%で他地域より低く、粗放的農業の支配的な地域、とくに中西部の縮小率が40%ともっとも顕著であり、中西部(とくに東北部と隣接する中部北東諸州)巨大農場の集約化がかなり急速に進んでいることが予想される。それと同時に、集約的農業の支配的な地域では一般に単位面積当り資本投下額が粗放的な地域より大きいにもかかわらず、より集約的な太平洋岸諸州の巨大農場の平均面積(2,467エーカー)が、より粗放的な中西部のそれ(1,734エーカー)より700エーカーも大きいことは、同じ巨大農場でも後者より前者の地域の方が一般にはるかに優位な位置にあることを示唆してくれる。

これまで農場数および農場面積を指標にアメリカ農業の動向を概観してきた

が、この5年間、合衆国では巨大農場を筆頭に大経営が全地域で急速に成長しており、しかも全体として集約的に発展していることが農場数と農場面積の関連からも間接に確認できる。とりわけ、資本集約的農業の支配的な太平洋岸諸州での巨大農場の成長にはめざましいものがあり、農場数においてもかなりの比率を占めている。また、近説<sup>11)</sup>が家族農場経営の模範的地域であり、かつ、アメリカ農業の最先進地域であると主張する中西部でも、この5年間、巨大農場が急増しており、前稿で指摘した資本集約的な太平洋岸諸州農業の先進性(中西部農業の相対的な後進性)と、中西部を含めたアメリカ農業全体の資本主義的発展の傾向は、農場数および農地面積の近年の動向をみただけでも予想できる。

## II 賃 労 働

賃労働の使用は農業における資本主義的諸関係のもっとも主要な指標であり、アメリカ農業の発展傾向・性格を解明するうえで決定的に重要である。ここでは常雇数と賃金支出額を指標に近年の動向を分析する。

### (1) 常雇数

常雇の定義が1964年センサスで変更されたため<sup>12)</sup>、常雇を使用する農場および常雇数につき1959年以後の動向を厳密には比較できないが、およそその変化を見通すことはできる。また、両年における常雇数の集積度(絶対数ではなく)を経済階層別ないし地域別に比較することは可能であり、以下ではこの定義の変更を念頭に置きつつ分析を進める。

1959年以後農場総数が大幅に減少したにもかかわらず、常雇を使用する農場は31.7万農場から34.9万農場へ10%増加している。常雇を1人使用する農場の増加はごくわずかにすぎないが、2人以上とくに、3人以上使用する農場の増

11) 拙稿、前出、第101巻第2号、42-43ページ。

12) 1959年センサスでは調査の前週に働いていた賃労働者のうち、その農場ですでに150日以上働いた賃労働者を常雇としたが、1964年センサスでは調査の前週に働いていたか否かにかかわらず、1964年に150日以上働く賃労働者(調査時までには、すでに150日以上働いた者も、今後働くと思される者も含む)をすべて常雇に含めている。したがって、前回より常雇として計算される賃労働者の範囲がいくぶん広がっている(1964年センサス、Vol. II, pp. 715-716 参照)。



加が著しく、わずか5年間に30%以上も増加している。とくに、西部の二地域では10人以上使用する農場の増加がめだっており、太平洋岸諸州では62%、山地諸州では52%も増加している。州別にみると、常雇を10人以上使用する資本主義的な最大規模の10,600農場のうち30%以上がカリフォルニア(2,241)、フロリダ(1,051)両州に集中している<sup>13)</sup>。

つぎに大経営による常雇数の集積の状況をみていこう(第3表)。巨大農場への常雇数の集積はこの5年間急速に進行しており、常雇総数に占める割合は27%から36%へ上昇している。農場総数のわずか1%にすぎない巨大農場が常雇の3分の1以上を使用するのであり、クラスI農場全体を含めると58%(1959年42%)と合衆国の常雇の大半をごく少数の農場が集中的に使用、これらの階層での農業の資本主義化が着実に進行していることがわかる。常雇数の巨大農場への集積は、家族農場経営の多い中西部を含めて合衆国の全地域で進行しているが、太平洋岸諸州のそれは65%(1959年57%)と他地域よりはるかに進んでおり(クラスI農場全体では83%)、農業の資本主義化という点でこの地域が合衆国の最先進地域であることが確認できる。巨大農場による常雇の集積は、山地諸州および南部が34~38%でこれにつづいており、中西部でも他地域よりは低い

第3表 巨大農場における常雇の集積(単位:100人)

地域		常雇数		農場総数(A)		巨大農場(B)		B/A		巨大農場の 一農場 平均常雇 数(1964)
		1959	1964	1959	1964	1959	1964	1959	1964	
総数		7,003	8,896	1,926	3,192	27.5%	35.9%	10.2人		
北 部	東北部	885	981	146	268	16.5	27.3	11.8		
	中西部	1,486	1,900	188	314	12.6	16.5	4.2		
南部		3,030	3,656	722	1,250	23.8	34.2	12.1		
西 部	山地	487	730	181	277	37.2	37.9	9.3		
	太平洋岸	970	1,502	556	972	57.3	64.7	11.7		

1959年センサス, Vol. II, p. 34, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28.

1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23, Vol. II, p. 718 より作成。

13) 1964年センサス, Vol. II, p. 718.

が、集積度は5年間に12%から16%へ上昇している。州別にみると、カリフォルニア・フロリダ両州の巨大農場の集積度は各々、61%から72%、58%から72%へ上昇、アリゾナ州は69%から74%に達している。

巨大農場での一農場平均常雇使用人数は合衆国全体では10.2人、資本集約的農業のさかんな太平洋岸諸州と東北部および大プランテーション経営の存在する南部では約12人を使用しており、中西部は他地域の半数以下ではあるが平均4人を使用している。

## (2) 賃金支出額

前項での常雇数を指標とするよりも、賃労働の年間使用状況をより正確に把握できる賃労働への年間支出額を指標に分析を進める<sup>14)</sup>。

1964年に賃労働へ支出した農場は158.5万農場、全然支出しなかった農場は157.3万農場で、合衆国のセンサス調査がはじまって以来はじめて、賃労働を使用する農場が農場総数の半数を越えた(50.3%、1959年は48%、1954年は46%)。なかでも賃金支出額の大きい農場ほどその増加率は高く、年間1万〜5万ドル支出する農場は5年間に37,200農場から39,700農場へ7%、5万ドル以上支出する最大規模の農場は4,384農場から5,464農場へ25%も増加している。そして、この5,000余の農場のうち2,008農場はカリフォルニア州に、517農場はフロリダ州にあり、合衆国の最大規模の資本主義的農場の半数近くが両州に集中していることがわかる。これらの資本主義的農場の絶対数は農場総数のなかではとるにたらない数だが、そこでの賃労働支出額の集積はのちにみるように顕著である。

つぎに賃金支出額につき近年の巨大農場による集積の動向を第4表でみてみよう。合衆国全農場の賃金支出総額は、この5年間26.2億ドルから28.0億ドルへ1.8億ドル増加している。なかでも巨大農場では農地面積が縮小したにもかかわらず賃金支出額の増加が著しく、ここでの集積度はわずか5年間に30%から40%へ(クラスI農場全体では61%へ)上昇している。

14) 1964年には、常雇を使用する農場(34.9万農場)の4.5倍(158.5万農場)も賃金支出農場を検出できた。

第 4 表 巨大農場における賃金支出額の集積 (単位: 10万ドル)

賃金支出額 地 域		農 場 総 数 (A)		巨 大 農 場 (B)		B/A		巨大農場の 一農場平均 支 出 額 (1964)
		1959	1964	1959	1964	1959	1964	
合 衆 国		26,217	27,986	7,890	11,232	30.1%	40.1%	35,771ドル
北 部	東 北 部	2,990	2,964	631	1,003	21.1	33.8	44,127
	中 西 部	5,189	5,604	712	1,150	13.7	20.5	15,509
南 部		9,164	9,605	2,130	3,152	23.2	32.8	30,540
西 部	山 地	2,171	2,351	753	994	34.7	42.3	33,222
	太 平 洋 岸	6,156	6,883	3,160	4,399	51.3	63.9	53,153

1959年センサス, Vol. II, p. 351, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28,

1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23 より作成。

地域別にみると、太平洋岸諸州では巨大農場の集積はこの間に51%から64%へ上昇、クラス I 農場全体を含めると82%に達する。太平洋岸諸州のわずか1,600余の巨大農場は、同地域の賃金支出総額の約3分の2を集積しているばかりでなく、合衆国全体の賃金支出総額28億ドルの15% (4.4億ドル) 強を集積して大規模な資本主義的農業を営んでいる。太平洋岸諸州について巨大農場の集積の進んでいるのは35%から42%へ上昇した山地諸州であり、賃金支出総額の減少した東北部でも巨大農場の支出額は約60%も増加し、集積度は21%から34%へ上昇している。近説が家族農場経営の典型地域と主張する中西部でも、この5年間に14%から20%へ上昇、他地域より集積度は低いがこの地域でも資本主義的諸関係の発展していることがわかる。州別にみると、カリフォルニア州の巨大農場の集積は58%から71% (クラス I 農場全体87%)、フロリダ州は59%から73% (81%)、アリゾナ州は74%から78% (89%) にそれぞれ達しており、いずれも農業の資本主義化の先進的な諸州である。

さらに、同じ第4表で巨大農場の一農場平均支出額をみると、全国平均は35,771ドル<sup>15)</sup>、太平洋岸諸州は最高額で53,153ドルを支出している。中西部の

15) 宮川淳氏は巨大農場の一農場平均賃金支出額が1959年の39,491ドルから35,771ドルへ減少したことを、およびこの間の1カ月当り賃金が増加したことを考慮して、両年の巨大農場の一農場平均雇用労働者数を推計し、22.85人から18.40人へ20%も減少したと指摘している (宮川淳, ア

巨大農場でも全国平均の半額以下ではあるが平均 15,509ドルの高額を支出している。農業労働者の1ヵ月当り賃金を太平洋岸諸州 239ドル、中西部 160ドルとし<sup>16)</sup>、常雇数に換算すると(年間就労日数150日、5ヵ月として換算)、前者では平均 44.5人、農業の資本主義化の相対的におくれている後者でも 19.4人を使用しており、巨大農場の資本主義的性格を浮彫りにすることができる。

最後に、1964年センサスではじめて賃金支出額別に区分した各階層の農場による賃金支出の状況を分析することが可能になったので、賃金支出額別に各地域の集積度の相異を比較検討する。賃金支出額の集積の程度は、農産物販売額別に分析するよりも、農業における資本主義的關係を直接表示する賃金支出額別に分析した方がはるかに顕著であり、合衆国の大規模農場での賃労働の集積の傾向をより正確に把握できる。賃金支出の状況をまず合衆国全体についてみると(第5表)、賃金を5万ドル以上支出する農場総数のわずか0.2%、5,464農場が、合衆国の賃金支出総額28億ドルの27.5%(7.7億ドル)を集積しており、

アメリカ農業主要担当層の動向、「オイコノミカ」第7巻第1号、昭和45年6月、72-73ページ)ところで、巨大農場の一農場平均支出額が減少したのは、この5年間に巨大農場数が19,979から31,401へ57%も増加し、賃金支出額の大きな農場と相対的に小さな農場が平均化されたためである。1959年と厳密に比較するには1964年の31,401の巨大農場のうち、賃金支出額の大きい上位19,979農場の一農場平均支出額と1959年のそれとを比較しなければならない。1964年センサスでは次の順序での推計が可能である。①1964年の巨大農場のうち、賃金支出額5万ドル以上の農場が5,055、2~5万ドル農場が7,671、1~2万ドル農場が7,417、支出額1万ドル以上の農場の合計は20,143である(1964年センサス、Vol. II, p. 664)。②1964年の巨大農場のうち、賃金支出額の大きい順に上位19,979農場をランクすると、5万ドル以上支出農場(5,055)および2~5万ドル支出農場(7,671)のすべて(12,726)と、1~2万ドル支出農場のうち7,253農場(19,979-12,726)が含まれる。③賃金支出額5万ドル以上農場の一農場平均支出額は140,773ドル、2~5万ドル農場は28,720ドル、1~2万ドル農場は13,158ドルである(1964年センサス、Vol. II, pp. 708-709より計算)。④②、③より各階層の賃金支出総額を導きだし、それを合計すると1964年の巨大農場のうち上位19,979農場の賃金支出総額は1,027,354百ドル、一農場平均支出額は51,422ドルである。みられるとおり、1959年と1964年の上位約2万農場の一農場平均支出額は39,491ドルから51,422ドルへ約12,000ドル、30%も増加している。この間の1ヵ月当り賃金の上昇を考慮し、宮川氏と同じ計算方法を用いて(賃金支出額/1ヵ月当り賃金162ドル×12)1964年の一農場平均雇用労働者数を推計すると26.45人となり、1959年(22.85人)より3.60人、16%も増加している。宮川氏は両年の巨大農場全体の一農場平均支出額だけをとりあげて、合衆国の大経営の資本主義的發展の傾向を過小に評価している。現実には、1964年の巨大農場には1959年よりも雇用労働者を16%も多く使用する19,979農場と、そのほかに11,422(31,401-19,979)の巨大農場が含まれているのであり、巨大農場を平均的ではなく総体としてみると、1959年より1964年の方がそこの資本主義的關係は拡大している。

- 16) 附付きの1ヵ月当り賃金である。中西部の賃金額は中部北東諸州(157ドル)と中部北西諸州(163ドル)の平均値をとった(U. S. Department of Agriculture, *Agricultural Statistics*, 1965, Wash., 1965, p. 446, Table 651 参照)。

第 5 表 各地域における農場と賃金支出額の支出額別分布

地 域		農場 総数	支出な し農場	支 出 し た 農 場							5万ドル 以上支出 農場の一 農場平均 支出額	
				500ドル 未 満	500~ 1,000 ドル	1,000~ 5,000 ドル	5,000~ 1万ドル	1万~ 2万ドル	2万~ 5万ドル	5万ドル 以上		
合 衆 国	農場数	100.0	49.7	31.5	6.1	9.5	1.8	0.8	0.4	0.2	1,408 百ドル	
	支出額	100.0	—	5.4	4.5	23.4	13.1	12.4	13.7	27.5		
北 部	東北部	農場数	100.0	50.8	22.3	6.7	14.0	3.5	1.7	0.8	0.3	1,319
		支出額	100.0	—	2.6	3.0	22.3	15.7	15.3	15.9	25.2	
	中西部	農場数	100.0	52.0	33.7	5.7	7.3	0.9	0.3	0.1	0.0 <sup>(1)</sup>	1,027
		支出額	100.0	—	12.0	8.7	37.1	13.3	9.5	8.5	11.0	
南 部	農場数	100.0	50.6	31.6	5.9	9.2	1.6	0.7	0.3	0.1	1,257	
	支出額	100.0	—	6.8	5.6	28.1	14.8	12.4	12.5	19.8		
西 部	山 地	農場数	100.0	42.0	25.6	8.1	16.9	4.0	2.1	1.0	0.3	1,317
		支出額	100.0	—	2.6	3.0	22.5	15.4	15.5	15.9	25.1	
	太平洋 岸	農場数	100.0	44.8	20.6	6.2	14.4	5.8	4.1	2.6	1.4	1,454
		支出額	100.0	—	0.9	1.0	8.4	9.5	13.2	19.0	48.0	

1964年センサス, Vol. II, pp. 708-709 より作成。

(1) 0.05%未満。

1万ドル以上支出する農場全体（農場総数の1.4%、45,200農場）では、支出総額の半額以上(54%)を集積している。

地域別にみると、太平洋岸諸州の集積が群を抜いており、ここでは農場総数の1.4%を占める5万ドル以上支出の2,275農場が賃金支出総額のほとんど半額(48%)を集積しており、支出額2万ドル以上の農場全体（農場総数の4%）では、70%弱、1万ドル以上の農場全体(8%)では80%以上と、この地域の賃金支出総額の大部分を少数の大経営が集積している。ちなみに太平洋岸諸州の最大規模の2,275農場だけで、合衆国全体の賃金総支出額28億ドルの10%以上(3.3億ドル)を支出している。太平洋岸諸州について集積の進んでいるのは資本集約的な近郊農業のさかんな東北部と粗放的大経営の多い山地諸州で、両州とも支出額5万ドル以上の農場(0.3%)が賃金支出総額の25%を集積、支出額1万ドル以上の農場全体(約3%)では56%と総額の半額以上を集積している。中西部で

も他地域より相対的に集積度は低いが、支出額5万ドル以上のわずか0.04%の598農場が賃金支出総額の11%、支出額1万ドル以上の農場全体(0.4%)では約30%を集積している。

州別にみると、5万ドル以上支出するカリフォルニア(2,008)、フロリダ(517)、アリゾナ(202)三州の最大規模の農場は、州の賃金支出総額の各々54%、60%、57%(支出額1万ドル以上の農場全体では、前二者はともに85%、後者は88%)を集積しており、資本集約的農業の支配的な州での賃労働の集積はめざましい。この三州の2,700余の最大規模農場の賃金支出総額は4.3億ドルで合衆国全体(28億ドル)の約15%に達しており、カリフォルニア州の2,000農場だけでも10%以上を支出している。

さらに同じ第5表で、賃金支出額5万ドル以上農場での一農場平均支出額をみると、全国平均は14.1万ドルである。太平洋岸諸州の平均支出額が14.5万ドルで最高額、これに東北部および山地諸州がつづいており、最低の中西部でも10万ドル以上を支出している。合衆国全体の最大規模の農場の賃金支出額を常雇数に換算すると(1カ月当り賃金162ドル<sup>17)</sup>、年間就労日数150日、5カ月として換算)平均173.8人となり、これらの少数の資本主義的大経営は中小工場に匹敵する賃労働者を使用していることがわかる。

これまで賃労働使用の面からみてきたアメリカ農業の近年の動向は、以下のよう結論できる。最近5年間、合衆国の大経営の農場面積は全体的に縮小したにもかかわらず、そこでの賃労働の集積は進んでおり、農業の生産過程における資本主義的諸関係はアメリカの全地域で拡大している。とくに、巨大農場では近説が家族農場の典型地域と主張する中西部の巨大農場を含めて全地域で賃労働の集積が急速に進んでおり、大量の賃労働者を使用して資本主義的に農場を経営している。しかし、同時に、農業の資本主義化という点では前節同様、巨大農場のもっとも支配的な太平洋岸諸州が合衆国全体の最先進地域であり、中西部は他地域より相対的に後進的位置にある。

17) *Ibid.*, p. 446, Table 651.

## III 機械と肥料

ここでは農業の集約性を示す農業機械および肥料を指標に、アメリカ農業の発展傾向をみていこう。

## (1) 農業機械の所有

センサス資料では機械所有台数の大経営への集積の程度は、他の諸指標より相対的に低くあらわれるが<sup>18)</sup>、主要農業機械の巨大農場による集積は急速に進んでいる(第6表)。トラクター総台数(ガーデン・トラクターは除く)はこの5年間に469万台から479万台へ約10万台増加したが、このうち6万台強が巨大農場で増加しており、巨大農場の集積度は2.6%から3.8%へ上昇、クラスI農場全体では8%から12%へ上昇している。貨物自動車、牧草刈取機も各々3.4%から4.8%、2.3%から3.4%(クラスI農場全体では1964年には前者は13%、後者は15%)へ上昇している。農場数の大幅な減少に影響されて自動車、コンバイン、コーン・ピッカーの総台数は減少しているが、これらの機械についても巨大農場での集積は進んでいる。

次に合衆国の代表的な農業機械のひとつ、トラクターを事例にとって、地域別に集積の動向をみてみよう(第7表)。トラクター所有総台数は、近年農場数

第6表 巨大農場における主要農業機械の集積(単位:100台)

機 械	農 場 総 数 (A)		巨 大 農 場 (B)		B/A	
	1959	1964	1959	1964	1959	1964
ト ラ ク タ ー(1)	46,885	47,868	1,213	1,842	2.6%	3.8%
自 動 車	36,354	35,935	458	696	1.3	1.9
貨 物 自 動 車	28,338	30,301	968	1,462	3.4	4.8
コ ン バ イ ン	10,416	9,097	139	207	1.3	2.3
コ ー ン ・ ピ ッ カ ー	7,924	6,898	50	81	0.6	1.2
牧 草 刈 取 機	2,910	3,157	67	106	2.3	3.4

1964年センサス、Vol. II, p. 660, pp. 681—682 より作成。

(1) ガーデン・トラクターは除く。

18) 拙稿、前出、第102巻第3号、55ページ、注13)参照。

第7表 巨大農場におけるトラクター<sup>(1)</sup>の集積 (単位: 100台)

トラクター 台数 地域		農場総数 (A)		巨大農場 (B)		B/A		巨大農場の 一農場平均 所有台数 (1964)
		1959	1964	1959	1964	1959	1964	
合衆国		46,885	47,868	1,213	1,842	2.6%	3.8%	5.9台
北 部	東北部	3,742	3,646	53	107	1.4	2.9	4.7
	中西部	24,665	24,945	198	356	0.8	1.4	4.8
南部		13,180	13,910	443	691	3.4	5.0	6.7
西 部	山地	2,589	2,654	138	179	5.3	6.7	6.0
	太平洋岸	2,672	2,674	364	493	13.6	18.4	6.0

1959年センサス, Vol. II, p. 216, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28.

1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23 より作成.

(1) ガーデン・トラクターは除く。

がもっとも激しく減少した東北部をのぞき、全地域で増加しているが、巨大農場での増加がとくにめざましい。トラクター所有台数の巨大農場による集積度は地域により格差が大きいが、太平洋岸諸州ではこの5年間に14%から18% (クラスI農場全体では34%) へ上昇、山地諸州がこれにつづいている。また、他地域より集積度の相対的に低い中西部でも0.8%から1.4%へ上昇している。州別にみると、カリフォルニア、アリゾナ両州の巨大農場の集積が顕著であり、5年間に前者は22%から29%へ、後者は37%から45%へ上昇しており、クラスI農場全体では各々48%、63%に達している。

## (2) 燃料支出額

機械の所有台数を指標とするよりも機械の利用度をより正確に表示できる燃料支出額を指標にした分析にうつろう<sup>19)</sup>。

合衆国の燃料支出総額は17.9億ドルで、5年前より2.3億ドル、13%増加している(第8表)。巨大農場の集積は7%から11%へ、クラスI農場全体では18%から25%にまで上昇しており、さきの機械所有台数を指標とするよりもはるかに集積度が高い。太平洋岸諸州の集積はここでも最高であり、この5年間に

19) 拙稿、同上、57ページ参照。



第 8 表 巨大農場における燃料支出額の集積 (単位: 10万ドル)

燃料支出額 地域		農場総数 (A)		巨大農場 (B)		B/A		巨大農場の 一農場平均 支出額 (1964)
		1959	1964	1959	1964	1959	1964	
合衆国		15,544	17,868	1,161	1,935	7.5%	10.8%	6,164ドル
北部	東北部	1,009	1,039	56	111	5.5	10.7	4,907
	中西部	7,535	8,356	143	290	1.9	3.5	3,907
南部		4,494	5,631	392	720	8.7	12.8	6,981
西部	山地	1,202	1,410	155	235	12.9	16.7	7,847
	太平洋岸	1,251	1,370	378	531	30.2	38.8	6,417

1959年センサス, Vol. II, p. 353, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28,

1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1- 48, Table 23, Vol. II, p. 705 より作成。

30%から40%弱にまで一挙に上昇, クラス I 農場全体の集積度は60%に達する。ついで山地諸州と南部の二地域が各々13%から17%, 9%から13%へ上昇しており, 中西部は1.9%から3.5%に上昇したにすぎず, 他地域よりはるかに低い。州別にみると, 巨大農場による集積はカリフォルニア州では41%から51%, アリゾナ州では56%から62%へ, クラス I 農場全体では72%と91%へ各々上昇しており, 燃料支出額の大部分が大経営で支出されている。

I 節でふれたようにこの5年間巨大農場の農場面積が全体に縮小したにもかかわらず, 燃料の一農場平均支出額は5,809ドルから6,164ドルへ増加し, 農場総数平均(561ドル)の10倍以上も支出しており, 巨大農場の集約化が急速に進んでいることがわかる。地域別にみると山地諸州が7,847ドルで最高額, 南部と太平洋岸諸州がこれにつづいており, 中西部のそれは山地諸州の支出額の2分の1にすぎない。

### (3) 機械賃作業 (machine hire) 支出額

第9表によると, 1964年の機械賃作業支出額は8.7億ドルで5年前の8.0億ドルより8%ほどの増加にとどまっている。これは1964年センサスの定義変更により, 繰綿 (cotton ginning) の賃作業支出額が機械賃作業支出額より省かれたからである。合衆国農務省の概算によれば, 1964年の繰綿賃作業支出額は約

第9表 巨大農場における機械賃作業支出額<sup>(1)</sup>の集積 (単位: 10万ドル)

地域		賃作業支出額		農場総数 (A)		巨大農場 (B)		B/A		巨大農場の一農場平均支出額 (1964) <sup>ドル</sup>
		1959	1964	1959	1964	1959	1964	1959	1964	
合衆国		8,046	8,698	1,184	2,078	14.7%	23.9%			6,616
北 部	東 北 部	249	288	7	36	2.6	12.5			1,595
	中 西 部	2,336	2,739	55	95	2.4	3.5			1,288
南 部		3,590	3,155	433	690	12.1	21.9			6,684
西 部	山 地	658	641	161	185	24.5	28.9			6,196
	太平洋岸	1,191	1,845	522	1,055	43.8	57.2			12,750

1959年センサス, Vol. II, p. 350, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28,

1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23, Vol. II, p. 711 より作成。

(1) 1964年には繰綿の賃作業支出額を含まない。

2.52億ドルであり<sup>20)</sup>、これを加えると1964年の賃作業支出総額は約11.2億ドル、現実には1959年より一挙に40% (3.2億ドル)も増加している。合衆国全体の巨大農場の集積は5年間に15%から24%へ、クラスI農場全体では28%から38%へ10%も上昇しており、機械所有台数や燃料支出額よりも集積は一層顕著である。

綿花栽培のさかんな西部の二地域と南部地方は、繰綿の賃作業支出額が省かれたにもかかわらず、北部の二地域より集積の進展は顕著である。太平洋岸諸州では巨大農場の集積度は44%から57%へ上昇しており、クラスI農場全体を含めると支出総額の4分の3を越えている(76%)。ついで山地諸州および南部の巨大農場の集積度は24%から29%、12%から22%へ各々上昇しており、北部の二地域、とくに中西部の集積度は他地域より相対的に低いが、ここでも2.4%から3.5%へ上昇している。州別にみると、アリゾナ・カリフォルニア・フロリダ三州では各々、63%から72%、51%から63%、38%から63%へと巨大農場への集積は進んでおり、この3州の9,500余の巨大農場が合衆国の機械賃作業支出総額の18% (1.5億ドル)、カリフォルニア一州で12%を集積している。

巨大農場の一農場平均支出額も、全国平均で5年間に5,928ドルから6,616ド

20) 1964年センサス, Vol. II, p. 696 参照。

ル (1964年は繰繰賃作業支出額含まず) へ増加, 全国平均の支出額 (275ドル) より 24倍も支出して巨大農場は集約的に発展している。とくに太平洋岸諸州の支出額は 12,750ドルと他地域を凌駕しており, 中西部 (1,288ドル) の約10倍も支出している。

これまで(1)~(3)項で合衆国の5年間の機械使用の動向を分析してきたが, 農業機械の集積は近年全地域で進展している。近説は農業の機械化の進展につれて賃労働者が駆逐され, 資本主義的農業が「解体」すると主張するが, アメリカ農業の近年の動向は, 賃労働者と機械の使用が互に排除しあうものでなく, 両者の大経営への集積が同時に進行することを確認してくれた。

#### (4) 肥料の使用量

合衆国の肥料使用量は5年間に198万トンから233万トンへ増加したが, その大部分(33万トン)はクラスI農場の使用量の増加によるものであり(巨大農場の増加は16万トン), 大経営の肥料使用量の増加は著しい。

第10表で巨大農場による肥料使用量の動向をみると, 5年間に集積度は10%から16%へ上昇<sup>21)</sup>, クラスI農場全体では21%から32%へ10%以上も上昇して

第10表 巨大農場における肥料使用量の集積 (単位: 1000トン)

肥料使用量 地 域		農 場 総 数 (A)		巨 大 農 場 (B)		B/A	
		1959	1964	1959	1964	1959	1964
合 衆 国		19,802	23,286	2,024	3,658	10.2%	15.7%
北 部	東 北 部	1,648	1,529	102	220	6.2	14.4
	中 西 部	6,866	8,595	149	388	2.2	4.5
南 部		9,113	10,466	851	1,730	9.3	16.5
西 部	山 地	505	742	134	236	26.6	31.8
	太平洋岸	1,471	1,786	616	937	41.9	52.5

1959年センサス, Vol. II, p. 328, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28,  
1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23, Vol. II, p. 646, p. 662 より作成。

21) 1964年には肥料支出額を指標に肥料の使用状況を分析することもできる。合衆国の肥料支出総額 17.7億ドルのうち, 巨大農場は16% (2.8億ドル)を集積しており, 肥料使用量の集積度とほとんどかわらない (1964年センサス, Vol. II, p. 662, p. 712 参照)。

いる。地域別にみると、太平洋岸諸州の巨大農場は42%から52%（クラスI農場全体では73%）へ集積度が上昇、山地諸州が27%から32%へ上昇してこれを追っている。中西部の集積度はここでも他地域よりはるかに低いが、この5年間に2.2%から4.5%へ上昇している。州別では、アリゾナ・カリフォルニア・フロリダ三州の集積が顕著であり、各々76%、65%、57%と使用量の大部分を集積するようになった。

次に第11表で巨大農場の肥料の平均使用量をみてみよう。一農場平均使用量は5年間に101トンから116トンへ増加しており、合衆国の平均使用量（7.4トン）より15倍も多量に使用している。地域別では南部の巨大農場が135トンから168トンへ30トン以上増加し、最も多量に使用しており、太平洋岸諸州と東北部が各々113トンと97トンでこれを追っている。中西部の使用量も37トンから52トンへ増加したが、平均使用量の2分の1以下であり、粗放的経営の多い山地諸州（79トン）よりもさらに少ない。

巨大農場の農場面積の縮小と肥料使用量の増加によって、農場面積一エーカー当たりの平均使用量は合衆国の全地域で急速に増加した。巨大農場の平均使用量は5年間に18kgから30kgへ70%も増加し、農業の集約化は急速に進ん

第11表 巨大農場の肥料平均使用量

肥料使用量 地 域		一農場平均使用量 <sup>(1)</sup>		一エーカー当たり平均使用量 <sup>(1)</sup>	
		1959	1964	1959	1964
合 衆 国		101.3トン	116.5トン	17.8kg	30.2kg
北 部	東 北 部	92.4	97.0	163.0	189.1
	中 西 部	37.2	52.4	12.9	30.2
南 部		135.0	167.7	22.0	40.9
西 部	山 地	58.2	78.7	3.2	5.5
	太 平 洋 岸	99.1	113.2	33.2	45.9

1959年センサス, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 22-28,

1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23, Vol. II, p. 654, p. 662 より計算。

(1) 巨大農場の農場数および農場面積の平均。

でいる。また、合衆国の全農場の平均使用量 (21 kg) よりも一エーカー当り使用量がはるかに高く、最大規模の巨大農場は資本集約性という点からみてもより小規模の農場より高度である。

地域別にみると、近郊農業のさかんな東北部の巨大農場の平均使用量が 189 kg で他を断然ひき離している。ここでは巨大農場の平均使用量の 6 倍以上の肥料を投入し、都市化の影響をうけながらも小規模な土地で高度に資本集約的な農業を發展させている。ついで、太平洋岸諸州と南部の両地域は各々 46 kg と 41 kg の肥料を使用している。中西部の巨大農場の一エーカー当り使用量もこの 5 年間に 13 kg から 30 kg へ 2.3 倍も増加しており、1964 年には巨大農場の平均使用量にちょうど等しく、全農場の平均使用量 (21 kg) の 1.5 倍を使用している。これまで粗放的農業地域のひとつとみなされてきた中西部で、巨大農場が農場面積を縮小し集約化の傾向をみせてきたことは、今後のアメリカ農業全体の發展傾向とかかわって重要である。

これまで農業の集約性を示す機械と肥料の近年の使用状況を検討してきた。すべての分析をつうじて、アメリカ農業の大経営、とりわけ最大規模の巨大農場が全体として資本集約的に發展していることが実証できた。大経営の農場面積が縮小したにもかかわらず、一農場当りの投下資本量は飛躍的に増大しており、農業の集約化を示す諸指標の大経営への集積は急速に進んでいる。そして、前節で実証した農業の資本主義化のもっとも進んでいる太平洋岸諸州は、機械や肥料の集積という点でも進んでおり、農業の集約性という面からもこの地域のアメリカ農業における先進性が確認できる。

#### IV 生産の集積

合衆国の農産物販売額は1959年の 305 億ドルから1964年の 353 億ドルへ48億ドル、16%増加している。この間、農産物価格は全体としては横ばい状態にあり、販売額の増加はほぼ販売量(生産量)の増加によるものとみなしてよい<sup>22)</sup>。

22) この間の農産物庭先価格指数 (1957-1959=100) は1959年が 97.2, 1964年は 94.3, 農業生産

また、農産物の収穫面積 (cropland harvested) はこの5年間に31,148万エーカーから28,689万エーカーへ8%も減少しており<sup>23)</sup>、近年の生産量の増加は農業生産力の上昇による面が大きい。

経済階層別に農産物販売額の動向をみると、第12表のとおりである。合衆国全体では販売額2万ドル以上(クラスⅡ以上)農場の農業生産の集積は50%から63%へ上昇し、販売額2万ドル未満(クラスⅢ以下)農場の農業生産に果す役割は50%から37%へ急落した。巨大農場による販売額の集積は16%から24%へ上昇しており、農場総数のわずか1%を占めるにすぎない3万余の農場が、合衆国農業生産のほぼ4分の1を担っている。14万余のクラスⅠ農場全体を含める

第12表 農産物販売額の経済階層別動向

地域		経済階層								巨大農場 の一農場 の平均 販売額 百ドル	
		総数	L	(I)	II	III	IV	V	その他 <sup>(1)</sup>		
合衆国		1959	100.0	16.3	15.2	18.4	21.9	15.4	7.4	5.3	2,494
		1964	100.0	24.2	18.4	20.2	18.7	10.3	4.6	3.6	2,719
北部	東北部	1959	100.0	10.1	15.1	23.6	26.9	14.6	5.3	4.4	2,082
		1964	100.0	18.9	21.1	24.2	20.8	8.5	3.1	3.3	2,139
	中西部	1959	100.0	6.6	12.3	20.1	29.1	20.4	7.7	3.8	2,133
		1964	100.0	11.1	16.8	25.3	26.1	13.3	4.7	2.6	2,216
南部		1959	100.0	15.6	15.4	16.2	16.9	14.9	11.0	10.0	2,196
		1964	100.0	24.0	20.0	17.2	14.9	10.9	6.7	6.3	2,464
西部	山地	1959	100.0	28.4	19.8	19.6	17.3	8.9	3.3	2.7	2,906
		1964	100.0	39.5	18.6	16.9	13.2	6.5	2.6	2.7	3,346
	太平洋岸	1959	100.0	45.3	21.5	14.7	9.6	4.9	2.1	1.9	2,810
		1964	100.0	59.4	18.4	10.5	6.1	2.8	1.3	1.5	3,274

1959年センサス, Vol. II, p. 1226, p. 1231, Vol. V, Spec. Rpt., Part 7, pp. 29-35,  
1964年センサス, Vol. I, State Statistics, Part 1-48, Table 23, Vol. II, p. 629 より作成。

(1) 例外農場を含むがその比率はごくわずかである。

指数 (1957-1959=100) は1959年が103, 1964年が112である (U. S. Department of Agriculture, *Agricultural Statistics*, 1966, Wash., 1966, p. 459, Table 665, p. 475, Table 685 参照)。  
23) 1964年センサス, Vol. II, p. 12.

と43%、販売額の半分近くを集積している。農場数の過半(56%)を占めるクラスV以下の販売額5,000ドル未満農場では、販売総額に占める割合は13%から8%に低下、42%を占めるクラスVI以下の販売額2,500ドル未満農場ではわずか3%に低下しており、農業生産全体に果たす役割はますます小さくなっている。

農業生産の大経営への依存度はこの5年間全地域で急速に上昇しているが、太平洋岸諸州ではそれがとくに顕著である。巨大農場の販売額の集積は45%から60%へ一挙に上昇し、クラスI農場全体を含めると同地域の販売総額の4分の3以上を集積している。ついで集積度の高いのは山地諸州で巨大農場は28%から39%へ、クラスI農場全体では48%から58%へ上昇している。農産物の集積の顕著な西部の二地域では、この5年間すでに販売額4万~10万ドル農場の農業生産に果たす役割も低下の兆しをみせており(太平洋岸諸州21%から18%へ、山地諸州20%から19%へ減少)、両地域の農業生産はひとり巨大農場で集積を深めている。南部と東北部が西部の二地域につづいて生産の集積を強めており、中西部は農業生産の面でも他地域より集積度が相対的に低い。しかし、この地域でも巨大農場の生産の集積は7%から11%へ、クラスI農場全体では19%から28%へ上昇している。1964年には中西部でもクラスII以上の農場が生産の過半(53%)を担うようになり、この地域の典型的な家族農場経営(クラスIII~V階層)の農業生産に果たす役割は57%から44%へ低下し、農業の資本主義化が相対的に遅れているこの地域でも、農業生産の中心的担い手はクラスII以上の農場へ移った。巨大農場の集積の顕著な州としては、アリゾナ・カリフォルニア・フロリダ三州があり、集積度は各々69%から78%、55%から69%、54%から69%へ上昇し、農産物の大半を大経営で生産している。

つぎに巨大農場の一農場平均販売額をみると、1959年の24.9万ドルから27.2万ドルへ9%ほど増加しており、全農場の平均販売額(11,176ドル)の約24倍も農産物を販売している。地域別では西部の二地域が30万ドル台の販売をしており、21~25万ドルを販売する南部と北部の二地域より生産規模は一般に大きい。

## V 結 論

これまでアメリカ農業の近年の動向をセンサス資料を中心に分析してきたが、そこでの結論を前稿での結論とかかわらせて今一度要約しよう。

第一に、合衆国の最大規模の巨大農場はこの5年間急速に成長しており、可変資本(賃労働)の集積度は27~30%から36~40%へ、不変資本のうち固定資本としての機械は3~15%から4~24%へ、流動資本としての肥料は10%から16%へ上昇しており、これらの資本を投入して生産される農産物の集積も16%から24%へ上昇している。農産物を4万ドル以上販売するクラスI農場全体では、賃労働の58~61%、機械の12~38%、肥料の32%を集積して農産物の43%を生産している。巨大農場を中心に大経営の集積は不断に進んでおり、アメリカ農業の非資本主義的発展を主張する近説の期待に反して、現代アメリカ農業は資本主義的な農業発展の道を歩んでいる。

第二に、近年のアメリカ農業は主として集約的に、耕地の量の拡大によってではなく、耕地の質の改善、一定面積の土地に投下される資本額の増大によって発展しており、これこそが現代アメリカ農業の資本主義的発展の主要な進路になっている。

第三に、農業の集約的・資本主義的発展という点で太平洋岸諸州は現代アメリカ農業の最先進地域であり、近説が最先進地域と主張する中西部でもこの5年間、農業の集約化・資本主義化が不断に進行しているが、他地域とりわけ太平洋岸諸州に較べて後進的な位置にある。また、かつての最先進地域東北部でも巨大農場を中心に高度に資本集約的な都市近郊農業が発展しているが、激しい都市化の影響をうけて、合衆国農業全体の中での地位はますます後退している。